

ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

● 軽めのバラケブレンド

パウダーベイトヘラ200cc+浅ダナー本100cc+
段底100cc+水100cc+スーパーダンゴ100cc



● 作り方

「パウダーベイトヘラ」、「浅ダナー本」、「段底」を粉のまま良く混ぜ合わせ、そこへ水を入れて30回ほどかき混ぜる。少しネバリが出たところに「スーパーダンゴ」を入れ、硬さの調整をする。「スーパーダンゴ」を絡めてからは練り込まず、小分けにしてエサ持ちの微調整をする。

● 特徴

このブレンドは、軽く持つタイプで重さは「段底」の重さだけになる。エサのまとまりはよく、ダンゴに食ってくるときもあるが、なじみ込みの速い釣りに適している。このエサを生かすにはハリスワークも重要で、短バリスで余分な動きを出させないほうがよい。

● 使い方のコツと手直し

このエサでエサの大きさを大きくして魚に反応させるときには「スーパーダンゴ」を「軽麩」に替えると「軽麩」の細かい麩材が水中で漂いアピールできる。「スーパーダンゴ」よ

りも「軽麩」のほうが軽いため大エサが打てるようになる。バラケ性が強過ぎて魚がはしゃぐときは、エサを小分けにして押しネリを加えるとウキの動きも静かになり釣りやすい。



ウキの動きが少ないとハリスの長さを伸ばしたくなるが、この釣りはバラケエサの煙幕の近くにくわせのヒゲトロをおくことがポイント。ミチイトは0.8号を基本にして、流れが強い時は0.7号に落とす。上ハリスはトラブル防止のために0.5号でくわせの下ハリスを0.4号と号数を変えると絡みにくくなる。長さは上ハリスの約倍くらいまでにすると明確で強いアタリが出るようになる。ハリはウドンや角麩のくわせのイメージで小さくするとヒゲトロが抜けることがあるので4号を基本に、活性が高い時には5号にしても良い。

■ 基本セッティング

竿●7~10尺
(なるべく最短を選ぶ)

ミチイト●0.8号

ウキ●羽根寸4~6cm
パイプトップ

ハリス●上0.5号8cm
下0.4号15~18cm
ハリ●上5号、下3~5号

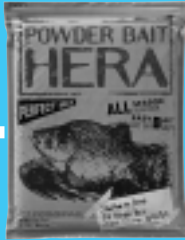
●重めのバラケブレンド

ペレ道100cc+パウダーベイトヘラ200cc
+スーパーダンゴ100cc+水100cc

※別に粒戦100ccを水50ccに浸しておく



+



+



+



●作り方

水を入れて30回位大きくかき混ぜ、練りは加えずに仕上げる。「ペレ道」がブレンドしてあるため、練り込みは禁物。重さを付けるときには別作りの「粒戦」を差し込んでいく。

●特徴

重さも関係してくるが、ペレットに反応する時点のときには軽めのパターンよりもこのブレンドのほうが厚く魚を寄せられる。

●使い方のコツと手直し

この釣りでの危険信号は、フワフワしたウキの動きが連続するときで、そういった状況になったら「粒戦」を差し込んでウズリを抑えていく。さらにウズリがきつときには「粒戦細粒」を振りかけるのも効果的。



■「ヒゲトロ」の使い方

ヒゲトロは分封になっているが一度に全部を水で戻すのではなく、半分にして繊維を切らないようにほぐして水で戻す。それを水切りして小さな容器に移しハリを引っ掛けるようにする。量の目安は垂らしの長さが2cmほどで幅が5mm程度でよく、多くても少なくとも良くない。慣れてきたら、多めにハリに引っ掛けて、こそぎ取るほうが早くハリ付けできる。

カラツンなどが多いときや、モヤモヤしていて食い

込まないときは巻いた方がよいときもある。その場合は、引っ掛けたトロロの先端を持ちハリに巻き込んでいく。3~4回で巻ける分量が適している。

「感嘆水」につける時は「感嘆」10ccに対して水100ccでトロロ口状にして漬けておく。トロロの膨らみが抑えられハリ持ちが良くなる。同様に「わらび職人」に漬けるとさらに重さが増すので高活性時には効果的だ。

●エサの大きさ

実寸大 直径10~15mm



●オモリ 実寸大

0.25mm厚の板オモリ

17×15mm



ヒゲトロセットのチョーチン釣り

●タナを作って良型を狙うブレンド

粒戦100cc+とろスイミー50cc+パワー・X200cc
+水150cc+特S200cc



●作り方

水分吸収に時間を要する「粒戦」、「とろスイミー」、「パワー・X」に水を入れ、ドロドロ状にして5～6分放置する。そしてネバりの出る「特S」で調整する。タナまで持たす方法は、練りを入れることとバラケエサの表面だけを指先で転がしてきれいに付けるだけで持つエサになる。

●使い方のコツと手直し

ウワズリ傾向で魚がはしやぐ時には「粒戦細粒」でエサ全体により重さを付けるとタナができやすい。傾向として軽いエサよりも重さのあるエサを軽めにハリ付けすると反応も良い。ブレンドに「粒戦」「とろスイミー」は欠かせないが、その他ペレット系が効くことも多いので、そのような時には「ペレ道」を「特S」と半々にして使用すると効果的となる。



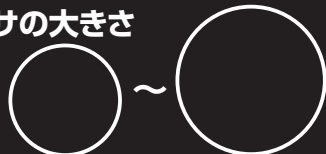
●特徴

タナに入ってから徐々にバラケエサに入っている「粒戦」が落下し、その粒とは別に「とろスイミー」の細かな粒子が煙幕を作る。しっかりとタナが作れ、縦に魚を寄せることができ、比較的良好型が揃う。エサが持ち過ぎる場合には少しだけラフにハリ付けしても良い。最後に入れる「特S」の量でエサ持ちが変わるため、10尺以上のタナを攻める場合には多めにに入れても良い。

●エサの大きさ

実寸大

直径
15~20mm



●オモリ 実寸大

0.25mm厚の板オモリ

17×20mm



●釣り方のコツ

ヒゲトロセツトの浅ダナ釣りの場合は、①なじみ込み直後を狙う釣り、②なじませからのアタリを狙う釣り方に分けられます。

①の場合は「ウキが立ちその位置での止めが強く出て、その直後にカチッと決める」

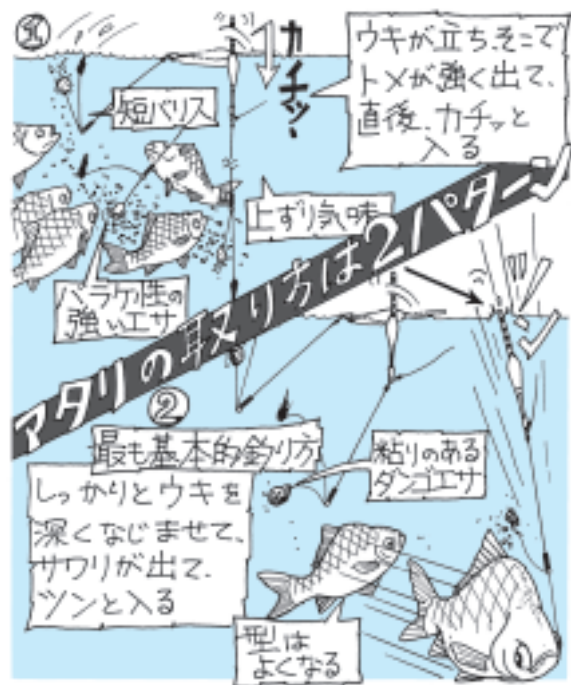
②は最も基本的な釣りで「しっかりとウキを1回深くなびませてサワリが出て、ツン

パターンになります。比較的に強いエサを使用したときにこの場合になります。なじみ込み時に反応させるため、短ハリスで釣るようになります。

と入る」のパターンです。釣るタナに魚を多く寄せるので場合が作りやすく、サイズも良くなる傾向があります。この時のバラケエサはネバリがあり、両ダンゴで使用するタツチに近くなります。

チョーチン釣りの場合は、基本的になじみ込み直後のアタリでは場合が作れないので「しっかりと深なじみさせる」ことが重要です。最近の傾向としては、重さのあるエサを使用するため「下ズリ傾向」があります。そのため、トップ先端残しでなんじみが止まり、その位置で持ちこたえるようなエサが効果的です。

また、1回ウキが沈没するくらいの大バラケを使い、ウキが沈没したら「縦サソイ」で反応させる方法も効きます。アタリはハリスが完全に張っている状態なので、強くズバツと消し込むような動きに絞り込みます。



浅いなじみ幅では打ち出しの数枚は釣れるが、ペースは作れなくなってしまう。時合作りに時間がかかってもしっかりとなじみ幅をとって、なおかつバラケエサがついているときの強いアタリを狙っていく。下ハリスの長さは短くても食うときのほうがヒット率は高いが、食いアタリが少なければ2cm刻みで調整していく。ハリスは、ハリスを張らすために軽いものよりも重さのあるタイプが良い。また、ハリスもナイロン系よりもフロロ系のほうが切れのいいアタリが出ることも多い。ウキは使い勝手の良いものが適しているが、重さのあるエサを使用するのでパイプトップがベターで、トップの沈没を避けること。

■基本セッティング

竿●7~10尺
(その日のタナに合わせる)

ウキ●羽根寸6~8cm
パイプトップ

ミチイト●0.8号

ハリス●上0.5号8cm
下0.4号15~20cm
ハリ●上5号、下3~5号